

京都府警察官募集!!

～あなたも京都の安全・安心を守りませんか～

第2回採用試験日 9月20日(日)

- ・インターネット受付 7/7～8/12
- ・郵送受付 7/7～8/19

説明会日程(電話予約制です)

- ◎7月18日(土) 13:00～
ウーマンポリススクールinサマー (女性限定説明会)
- ◎7月25日(土) 13:00～
オープンキャンパスinサマー (就職説明会)

- 落とし物受理体験や白バイの走行見学などができます
- 会場はいずれも京都府警察学校です

担当:京都府警察本部警務課採用係 ☎0120-555-314

ぼく、京都のおまわりさんになるねん



あのとき、とじこめた気持ちをもういちど信じてみようと思う

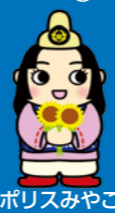
府警

あんぜん広場

平成27年 7月

第84号

「府警あんぜん広場」は府警の情報をお知らせするページです。日々の生活にお役立てください。

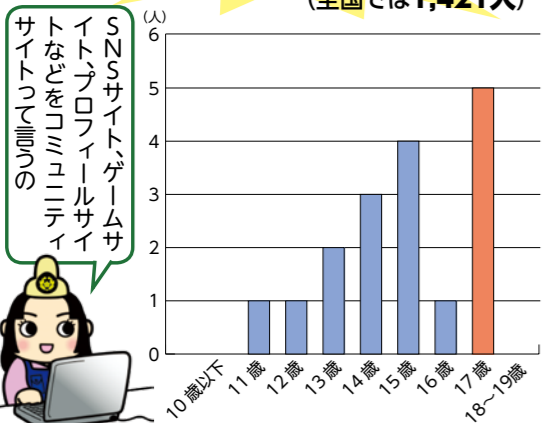


ポリスマみやこ



京都で平成26年中にコミュニティサイトを利用して

犯罪被害に遭った子どもは **17人**
(全国では**1,421人**)



※府内中高生代表「京都青少年スマホ宣言」から

- 危険な出会い警報! ※
- 出会ったら相手は正体想定外!
- ネットにはすてきな出会いもありますが、悪意を持った大人もいます。
- ネットで知り合った人とは会わない、簡単に信用しないようにしましょう。

気を付けよう コミュニティサイト!

最近、コミュニティサイトが絡む犯罪が多く発生しています。この夏休みは家庭の安全・子どもの安全を守るために、「犯罪に巻き込まれない」ルールを作りましょう。



お気軽にお立ち寄りください。

平安なでしこ交番紹介(第4回)

海や川に出掛けられ、近くで困ったことがあればお気軽にお立ち寄りください。



5月の出来事～
峰山交番では深夜、道に迷った他県居住の高齢女性を保護し、女性警察官が対応して、無事親族に引き継ぎました。後日、女性から感謝のお手紙を頂きました。

気を付けて! 海や川は危険がいっぱい

- 1 危険な時 ○お酒を飲んだ時 ○体調が悪い時 ○天気が悪い時
- 2 危険な場所 ○立ち入り禁止看板のある所 ○深みや流れが急な所
- 3 危険な行為 ○子どもだけで泳ぐこと ○子どもから目を離すこと ○プレジャーボートなどの船舶が、危険なスピードで人に近づくと(京都府遊泳者及びプレジャーボートの事故の防止等に関する条例)

京都府警察 スローガン 千年を守る 未来を創る

京都府警察本部広報応接課
☎075-451-9111(代) ☎075-414-2882
〒602-8550 京都市上京区下立売通金座東入

地域包括ケア (第16回)

京都府絆ネット構築支援事業

「交流と見守りを基礎として、地域で生活を支え合う仕組みづくりへ」

大谷大学文学部(社会学科) 教授 山下憲昭氏



この地域で、ずっと暮らしたい。

高齡化と地域関係の希薄化 府北部では著しい人口高齡化が進んでおり、南部でもかつてのニュータウンや中心市街地での高齡化が顕著です。世帯規模の縮小と地域関係の希薄化が並行して進み、「孤立死」や虐待などの「社会的孤立」が問題になっていきます。「もしものことがあったとき、頼れる誰かが思い浮かばない」。そう感じている高齡の方や障害のある方などが増えています。

「交流」と「連携」が 地域福祉推進の鍵 人は、本来、支え合い励まし合う関係の中に生きる社会的な存在です。身近な人間関係は、個人や家族の努力があつて成り立ちます。日々、熱心に活動していただいているボランティアの方や、地元の高齡者らに貢献していただいている団体、企業・事業所の皆さんによつて、困っている人々を見守り、支える活動が広がっています。厳しさを増す社会状況において、より効果的に取り組むことが期待されています。見守る側同士が、互いの役割を理解しながら、交流し連携して取り組むネットワークの仕組みづくりがポイントです。



©岡野 雄一

治体が地域福祉の仕組みづくりを推進することとの両面から、暮らしの場である地域を守り育てていけるような取り組みの発展を願っています。

京都府絆ネットワークとは: 関係団体が一緒になって考え、連携して地域の課題を解決するための見守りネットワーク

地域包括ケアとは: 高齡者が住み慣れた地域で、安心して暮らし続けるために、高齡者ニーズに応じて適切な医療・介護・福祉サービスが一体的に受けられる地域づくり

高齡者涼やかスポット

地域の高齡者施設の一部を「涼やかスポット」として無料開放。懐かしの映画上映や交流イベントなど、施設ごとに催しを実施しますので、ご利用ください。

高齡者支援課
TEL 075-414-4575
FAX 075-414-4572

☎介護・地域福祉課 ☎075-414-4556 FAX 075-414-4572

人権口コミ講座・94

全国水平社創立90周年 - 創立の思想と現代社会 -

(公財)世界人権問題研究センター研究第二部客員研究員 立命館大学ほか非常勤講師 手島一雄

部落出身者が自らの手で差別からの解放を勝ち取ると宣言した全国水平社の創立大会(1922年3月3日)から、2012年で90年。「人間の奪還」-それが水平社に集った部落青年たちの叫びでした。学校、地域社会、就職、結婚などあらゆる場面で排除され「人間」扱いされてこなかった部落の人々には、差別への怒りと同時に、自らの生まれを卑下する諦観や自暴自棄的な風潮も広がっていました。水平社宣言は、「兄弟よ、吾々の祖先は自由、平等の渴仰者であり実行者であった」と述べ「誇り」を喚起するとともに、「人の世に熱あれ、人間に光あれ」と語り、人が尊重し合う社会を作ると訴えました。

戦後、基本的人権を明記した新憲法が制定され、旧身分や家柄を重視した諸制度を廃止し部落差別をなくす条件が生まれます。同和行政により部落の生活環境が改善。解放運動や民主主義を担う運動によって部落差別も「解消の過程」に入ったといわれます。部落内外の結婚が増え、状況は様変わりしましたが、部落に対する忌避感情が全くなかったというわけではありません。身元調査や土地差別は依然としてあり、

インターネット上では心ない書き込みが見られます。私は大学で行う人権教育の授業で、かつて政府が行った「子どもの結婚に関する意識調査」の項目を継続的に問い掛けています。「部落出身は関係ない、大事なのは人柄」と答える人が増えていますが、一方で親世代の約4割が「結婚を避けてほしい」と回答します。その理由は①部落に対する偏見、②親族付き合いの問題、③苦労させたくないなどに三分されます。親子観や結婚観という問題が背景にあり、③では厳しい競争社会の中で「不利な事象」の回避という心情が働いているようです。

翻って今日、格差社会の下でワーキングプアと呼ばれる人々の非人間的な労働環境があり、それらを「自己責任」「致し方ない」と見る風潮もあります。子どもの間では陰湿な「いじめ」が問題とされています。水平社がかつて唱えた「人間の奪還」や個人を尊重し合う社会作りは、今こそ問われているのではないかと。長い苦闘の歴史をもつ部落差別をなくすための運動が、そうした運動の中軸となり、その経験が活かされることを望んでいます。

©平成25年3月発行の「人権口コミ講座14」の内容を加筆・修正し、再掲載しています。